

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

1

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1624-43	寛永年間				この年、松前藩がアイヌとの交易所を開設★
1643	寛永20				松前旧事記にはじめて「クスリ」の地名があらわる☆
1786	天明6				釧路で昆布採取がはじまる▲
1799	寛政11				この年、幕府の直接経営となり釧路川口にクスリ(釧路)会所・旅宿所・酒造所が設けられる★、幕府の蝦夷地御用船「政徳丸」が品川沖を出帆、クスリに上陸後アッケシに入港する(江戸～厚岸間の直航路を選定)※6
1802	享保2				この年、幕府、クスリ場所にシラヌカ場所を統合する※6
1808	文化5				この年、釧路場所の出産高3,964石余を記録▲
1845	弘化2				この年、松浦武四郎がはじめて東蝦夷地を旅し釧路にも立ち寄り知床へ至る▲
1854	嘉永7 安政元	2. 25 アメリカ応接掛林等は、ペリーの要求を受けて箱館港で食料・薪水の供給を行うことを通告◇ 4. 15 ペリーの艦隊、箱館へ来航 6. 26 幕府、松前藩より箱館および同所周辺5、6里四方を上知			
1855	安政2				この年、箱館(函館)が前年に開港場となり、幕府は再び釧路を直接経営する(本州から漁場へ働きにくる人が増加)★
1856	安政3				この年、クスリ場所オソツナイで幕府が石炭を掘るが、まもなく中止する※6
1857	安政4				この年、場所請負人の米屋孫右衛門が移民5戸を釧路に入れ、これが和人永住者の始まりとなる☆、シラヌカのシリエトで石炭を採掘する※6
1859	安政6	6. 2 箱館奉行は触書で諸外国との修好通商条約により箱館港を貿易港とし、同5日より外国人との交易を許す旨を通達する◇ 6. 2 アメリカ商船モーレー号が貿易船として最初に箱館に入港する◇			
1863	文久3				この年、米屋が大謀網を開発し、漁業を大いに高める▲
1864	元治元	6. 15 五稜郭完成、箱館奉行所ここに移る			
1868	明治元	明治27			
1869	明治2	5. 18 五稜郭の旧幕府軍降伏し、箱館戦争終わる			8. 15 クスリから釧路と改称され、釧路国釧路郡となる▲
1872	明治5	10. - 東浜町に埠頭を築設する◇	6. 23 手宮港を小樽港と改称した● この年、開拓使による色内村の石造ふ頭着工('74年竣工)、開拓使による手宮村の木造ふ頭着工('77年竣工)◎		
1873	明治6	2. - 開拓使は函館～青森および函館～大渡(現大湊)間の定期航路を開設する◇	12. - 小樽港に常灯台を設置●	この年、室蘭海関所設置。森～室蘭間に定期航路開設◎	9. - 榎本武揚が日高・十勝・釧路・根室を巡視○ 10. 23 釧路・厚岸港に海関所を設置▲
1874	明治7	11. - 三菱商会、東京～函館間定期航路を開設			この年、釧路郡の戸数260戸、人口581人、土人363戸と報告▲
1875	明治8	3. 20 北海道の函館、福山、森、長万部、室蘭、札幌、小樽の7電信局、公衆電報の取り扱いを開始	3. 20 北海道の函館、福山、森、長万部、室蘭、札幌、小樽の7電信局、公衆電報の取り扱いを開始	3. 20 北海道の函館、福山、森、長万部、室蘭、札幌、小樽の7電信局、公衆電報の取り扱いを開始	
1876	明治9	この年、三菱商会、横浜、下関、新潟、函館の西廻り航路完成させ、1,000t級の汽船の運航を開始	10. - 手宮海岸に延長38間の埠頭の築造に着手● この年、玄武丸にて毎月一回、東京～小樽間の定期航路を開始●		この年、佐野孫右衛門、アトサヌプリ(川湯)の硫黄鉱試掘を出願し、許可される※6
1877	明治10		11. - 手宮埠頭が落成●		この年、約130隻の漁船が常時出入りし、次第に漁港としての重要性を加える※6
1878	明治11		4. - 函館税関派出所を色内町に設置●		
1879	明治12	6. - 開拓使、三菱会社の函館～青森間定期航路開設を許可。付属船による同航路を廃止	この年、水利工師「ファンゲント」が小樽港内を測量●		この年、開拓使が釧路地方の炭脈を調査☆
1880	明治13	8. - 三菱会社、函館～小樽間の定期航海を開く	8. - 三菱会社、函館～小樽間の定期航海を開く 11. 28 手宮～札幌間の汽車運転式挙行		この年、佐野孫右衛門が硫黄搬出のため自費で開削した道路約27里が完成(雪裡～アトサヌプリ間)※6
1881	明治14				
1882	明治15	7. 26 共同運輸会社の設立により、東京風帆船会社、北海道運輸会社、越中風帆会社などを合併	11. - 手宮～幌内間の鉄道が全通●		

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

2

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1883	明治16	2.- 越前の山田又左、函館に私立山田銀行創設 5.15 政府、共同運輸会社に森～室蘭間定期航路を命ずる 5.- 第三十三国立銀行、函館支店を設置 11.- 三菱会社は新潟丸を加えた3隻体制として函館～横浜間の航路を神戸まで延長し、阪神地方への直行便が開設される◇			
1884	明治17	この年、共同運輸会社は三菱会社と同じく青函航路に隔日の定期運行を開始する◇	3.3 三井物産、小樽出張店を設置		
1885	明治18	7.8 函館器械製造所で建造中のスクーネル形汽船矢越丸が完成し進水式を行う。北海道での汽船製造の始めとなる◇ 9.29 郵便汽船三菱と共同運輸両会社合併による日本郵船会社が設立◇ 9.29 日本郵船会社の航路を指定(函館～横浜間/函館～根室間/函館～小樽間/函館～青森間/森～室蘭間/小樽～伯州境間/小樽～増毛～礼文～利尻～宗谷間/国後～択捉～北見地方間)	9.29 日本郵船会社の航路を指定(函館～横浜間/函館～根室間/函館～小樽間/函館～青森間/森～室蘭間/小樽～伯州境間/小樽～増毛～礼文～利尻～宗谷間/国後～択捉～北見地方間)	9.29 日本郵船会社の航路を指定(函館～横浜間/函館～根室間/函館～小樽間/函館～青森間/森～室蘭間/小樽～伯州境間/小樽～増毛～礼文～利尻～宗谷間/国後～択捉～北見地方間)	この年、日本郵船が函館～根室の命令航路を開設(釧路に寄港)、三井銀行根室支店が釧路出張所を開設▲
1886	明治19				この年、北海道庁が英国人技師C・S・メイクに港湾調査を命じ、翌20年に調査報告が完成する▲、安田善次郎(安田財閥)、アトサプリの硫黄山を譲り受ける※6
1887	明治20	6.22 英国人技師C・S・メイクが技師福士成豊と共に来函し、町会所に投宿する。函館へ上陸後直ちに出張所へ赴き亀田川の切り替え工事現場を視察◇ この年、道庁、亀田川の切替工事を実施			この年、安田善次郎、硫黄製錬の燃料補給のため春採炭山の開発に着手、アトサプリア～標茶間に硫黄輸送のため鉄道を敷設、また、釧路川に航路を開き、標茶～釧路間の連絡確保のため、蒸気船を就航させる※6 当時の戸数421戸、人口2,120名▲
1888	明治21	7.- 前北海道庁長官岩村通俊の命により、C.S.メイクが函館港改良について調査をする◇ 9.14 C.S.メイク(北海道開拓使港湾土木技師長)が函館港湾調査の詳細をまとめ、永山北海道庁長官あてに「函館港に関する報告書」を提出する◇			この年、函館の金森汽船が釧路～函館間の航路を開設。釧路・十勝共同汽船会社が設立※6 当時の戸数667戸、人口2,897名▲
1889	明治22	5.6 函館商工会、富岡町に設立	7.27 小樽有志者、小樽農商工会を設立 7.31 小樽港が特別輸出港に指定		9.22 釧路の愛北物産会社、約2500円を投じて釧路川に木橋を架設、完成(幣舞橋の前身) この年、釧路川左岸7,000坪が埋め立てられる※6、釧路～標茶間の道路が開通 当時の戸数767戸、人口3,068名▲
1890	明治23	2.- 大日本水産会社、道庁の許可を得てタラ沖合漁業に着手 4.- 函館の有力者・園田実徳らが発起人となり、北海道セメント設立('92年、上磯郡上磯村に工場竣工) 7.1 日本郵船会社は横浜～函館間の定期航海船4隻を改めて6隻とする◇			9.1 知人岬に釧路埼灯台が設置▲ 12.27 釧路港、新たに特別輸出港となる この年、安田善次郎、春採炭山の石炭搬出のため、春採湖沼尻～港頭貯炭場間に馬車鉄道を敷設(安田の馬鉄)。阿寒川第1分水工事が実施※6 当時の戸数926戸、人口4,231名▲
1891	明治24				1.24 釧路港に特別輸出港規則施行の件公布(7月1日施行)、同時に釧路に税関出張所をおく 当時の戸数868戸、人口5,252名▲
1892	明治25	11.16 北垣北海道庁長官の来港に際し、杉浦嘉七ほか45人の調製にかかわる船渠設置の意見書を提出◇ 11.- 道庁技師廣井勇等による修港船渠新設の調査が再開される◇	この年、北垣国道・北海道庁長官が小樽港の修築を急ぐべきと唱える		6.21 安田善次郎ほか5人が出願の釧路鉄道会社が認許され、標茶～跡佐登間の運輸営業を開始 8.1 北海道炭礦鉄道会社、岩見沢～室蘭(輸西)間、営業開始
1893	明治26	4.1 日本銀行、札幌・函館・根室・室蘭に出張所、小樽に派出所を開設 10.1 逓信省命令航路中、青森～函館間航路を延長して室蘭に連絡し、青森・室蘭両地より毎日1回互いに発船	4.1 日本銀行、札幌・函館・根室・室蘭に出張所、小樽に派出所を開設 この年、井上馨内務大臣が来樽し、小樽港修築の急を唱え廣井博士に調査を命じる●	4.1 日本銀行、札幌・函館・根室・室蘭に出張所、小樽に派出所を開設 10.1 逓信省命令航路中、青森～函館間航路を延長して室蘭に連絡し、青森・室蘭両地より毎日1回互いに発船	12.23 茂尻沢～阿寒太間に釧路橋が架設▲ 当時の戸数1,027戸、人口6,049名▲
1894	明治27	2.2 函館築港審査委員を置き、平田文右衛門ほか9人に委員を委嘱する◇ この年、内務省土木技監古市公威が来函し、函館港湾改良についての調査研究にあたる◇	8.1 小樽港において、露領沿海州、サガレン(サハリン)島および朝鮮貿易に関する日本国民所有船舶の出入りと貨物の積卸しを許可 この年、廣井勇技師により港の地形、深淺測量を実施	5.22 室蘭港、特別輸出港の施行(ただし軍港予定地のため貿易は1903年まで極度の制限を受ける)	この年、前田汽船会社(本社・釧路)が開業し、函館～釧路～霧多布間の定期航路を開設。能登善吉も汽船運航を開始し、日本郵船会社を交えての競争となる 当時戸数1,117戸、人口6,726名▲

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

3

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1895	明治28	<ul style="list-style-type: none"> 6. - 道庁技師廣井勇が函館港改良工事の監督を務める◇ 7. 10 日本銀行、函館出張所を北海道支店、根室出張所を同支店の派出所とする 8. 26 船渠予定地払下予約に関し函館区長に出願する。30日、函館区長より許可が下りる◇ 8. - 港内浚渫および船渠地埋立のため、30万円の補助を内務、大蔵、陸軍などの各大臣と貴族院・衆議院に対して請願する◇ 8. - 函館船渠(株)創立につき、40万円の補助を内務・通信大臣に提出する◇ 9. 1 函館船渠(株)の発起人が町会所で開かれ、資本金120万円を以って会社創立の決議をする。さらに、創立委員7人を選定し、創立事務所は日本郵政(株)館支店内に置く◇ 11. - 佐藤祐知ら設立の亀函馬車鉄道、敷設認可を得る('97年12月12日、亀田～若松間で馬鉄営業を開始) 	<ul style="list-style-type: none"> 9. 28 小樽貯蓄銀行設立 10. - 小樽商業会議所設立● <p>この年、廣井勇により第1期小樽築港計画が立てられる。一大試験工事を実施</p>		
1896	明治29	<ul style="list-style-type: none"> 1. 15 園田実徳、函館電灯所を開業、経営 2. 27 函館船渠(株)の東京発起人が開かれ、補助金下附請願の方針を改めて資本金120万円の私設会社とする方針を決議する。3月3日、函館発起人会もその方針を承諾する◇ 6. 13 函館船渠創立総会を東京で開催(11月7日設立免許) 6. 25 道庁技師廣井勇の設計監督のもと函館港改良工事に着手する(弁天砲台を取り壊し、周囲を区営で4万4,547坪埋め立てる。また、函館船渠の敷地1万5,800坪は会社で内面を埋め立てる) 6. 30 函館貯蓄銀行設立 	<ul style="list-style-type: none"> 4. - 廣井勇、小樽港湾調査報文を道庁から発行● 6. 5 日本商業銀行、小樽支店を設立(本店神戸) 		
1897	明治30	<ul style="list-style-type: none"> 4. - 道庁補助航路となる函館～十勝(大津)間を開設する◇ 5. - 函館港改良工事の一環として小舟町の船入場(船入洞)造設工事に着手する(4,280坪造成)◇ 5. - 若松町の埋立工事(2万7183坪)が着工される。同33年4月に竣工し、同35年停車場用地として北海道鉄道(株)に売却される◇ 8. 5 前・内務大臣井上馨が来函する。弁天町の港湾改良工事事務所で築港工事の様子を視察し、室蘭に向かう◇ 9. 16 新任の北海道庁長官安場保和が来函する。築港工事ほかを視察し青森経由で上京する◇ 10. - 若松町水面埋立工事費2万円を競馬会より借り入れる◇ 12. 9 道庁に函館港調査委員会を設置し、同規則を定める◇ 12. - 道庁は函館港調査委員に道庁技師の廣井勇、函館支庁長龍岡信熊のほか民間から平田文右衛門・平出喜三郎・遠藤吉平・相馬理三郎らを任命する(同月第1回目の港湾調査会を開く)◇ 	<ul style="list-style-type: none"> 4. - 小樽築港事務所が事務を開始● 5. - 小樽港第1期工事起工(廣井勇設計・監督、1908年6月竣工) 		
1898	明治31	<ul style="list-style-type: none"> 7. 7 開港港則が公布され、函館港界(阿野間崎から南方沖合半海哩の所より上磯村有川口の東岸まで引いた一線内)も定められる◇ 9. - 函館区が実施する函館港改良工事の一部分にあたる海岸町防砂堤(第1防砂堤)が竣工する(浚渫・防砂堤工事の経費は14万8,117円)◇ 11. - 函館港改良工事のうち、埋立地石垣の石材に供するために旧弁天砲台を取り壊す工事が完了する◇ 11. - 日本郵船会社が函館～釧路間、根室～網走～南千島間の命令航路を開設する▲ 			<ul style="list-style-type: none"> 11. - 日本郵船会社が函館～釧路間、根室～網走～南千島間の命令航路を開設する▲ <p>この年、道庁技師廣井勇工学博士が釧路港を精密調査し、修築計画を樹立。開港港則(勅令第139号)が公布され、釧路港の港域が決定。木造曳船「いろは丸」が建造※6 当時の戸数1,405戸、人口7,968名▲</p>
1899	明治32	<ul style="list-style-type: none"> 5. 6 函館港改良工事のうち防波堤および埋立工事が竣工し、3日間区民の縦覧を許可する◇ 6. 14 函館船舶司検所を改め函館海事局とする。北海道・青森県・秋田県を管理し、事務分掌のため小樽海事署を置く◇ 	<ul style="list-style-type: none"> 7. 13 小樽・釧路・室蘭を開港※8 10. 2 十二銀行、小樽支店を開設(本店富山) <p>この年、小樽港が外国貿易港(開港)に指定◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 7. 13 小樽・釧路・室蘭を開港※8、室蘭港においては、麦・石炭・硫黄その他、大蔵大臣指定の物品に限り輸出を許可 	<ul style="list-style-type: none"> 3. - 北海道鉄道部釧路工事区が開設▲ 7. 13 小樽・釧路・室蘭を開港※8 <p>この年、釧路港が関税法に基づく普通貿易港に指定。阿寒川第2分水工事を施工※7、越後漁民が母漁村より川崎船を直接釧路へ導入して手繰網漁業を行い、漁場が拡大し、漁獲量が増加▲ 当時の戸数1,947戸、人口9,141名▲</p>

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

4

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1900	明治33	9.30 函館港改良工事が竣工する(工事費11万4,856円)◇			7.1 釧路に町制が施行▲ 5.- 官設鉄道釧路線(帯広～釧路間)工事を釧路方面より着工▲ 9.2 輸入貨物を積載した外国汽船がはじめて釧路港へ入港▲ この年、釧路川左岸35,209坪の埋立工事に着手※6、前田正名ら釧路に前田製紙工場設立、初代幣舞橋が国費で架けられる★ 当時の戸数2,129戸、人口1万309名▲
1901	明治34	2.1 函館船渠、1,000トンまでの船舶曳揚修船台を竣工 8.- 北海道機械網、函館に設立			7.- 釧路～白糠間に鉄道が開通▲ この年、釧路港修築計画が明治36年より8ヵ年継続事業として「北海道10年計画」に含まれる※6 当時の戸数2,241戸、人口1万460名▲
1902	明治35	2.1 日本郵船会社函館支店は東浜町棧橋に船客待合所を新築し、供用を開始する。2階には移住民事務取扱所を置く◇ 4.- 函館港内の停泊船火災防御のため水上消防部を設置◇			
1903	明治36	7.28 函館船渠、1万トン用のドックを竣工 9.13 函館開港50年記念会が開かれ、函館公園で式典が行われたほか、花火の打ち上げや手踊り・点火行列などの行事が挙行される◇			3.- 釧路線、白糠～音別間に鉄道が開通▲ この年、釧路川左岸の埋立工事が完成し、入船町が新設▲ 当時の戸数2,507戸、人口1万2,010名▲
1904	明治37	10.15 小樽～函館間鉄道(159マイル)が全通し、開通式を挙行	10.15 小樽～函館間鉄道(159マイル)が全通し、開通式を挙行		8.- 第二十国立銀行釧路支店が開設▲ 当時の戸数2,588戸、人口1万838名▲
1905	明治38	4.- 千島漁業家ら、千島汽船を函館に設立	8.1 北海道炭礦鉄道および函館鉄道の高島～小樽間の連絡線が開通 この年、北海道炭礦鉄道(株)経営の若竹町埋立工事が完成●		10.21 北海道官設鉄道利別～帯広間が営業開始。これにより釧路線の釧路～帯広間が全通▲ この年、釧路港より上海へ、初めて枕木が直輸出される▲ 当時の戸数3,046戸、人口1万3,624名▲
1906	明治39		8.20 日本銀行小樽出張所、支店に昇格		この年、政府の同意を得て、釧路港修築計画が帝国議会で提出されたが、貴族院で否決される。釧路炭礦(株)、阿寒郡舌辛炭山を採掘※6 当時の戸数3,189戸、人口1万4,746名▲
1907	明治40	この年、第二種重要港湾の指定◎	4.16 第四十七銀行(本店富山)、小樽支店開設 4.- 鉄道院は手宮の海面埋立に着手● 5.- 小樽区に小樽市場・共同倉庫創立 この年、第二種重要港湾に指定◎、藤山汽船部は小樽～樺太間の定期航路を開始●	4.13 北炭、輪西製鉄所の建設に着手(砂鉄による製鉄事業) 11.1 北炭及び英国アームストロング社・ビッカー社、折半出資により日本製鋼所設立('11年1月開業) 11.29 室蘭港を一般貨物の輸出入港とする	8.- 釧路銀行が開設▲ 9.8 国有鉄道落合～帯広間、営業開始。十勝線が全通し釧路線と接続、旭川～釧路間を釧路線に改称 この年、道庁の関屋技師による釧路港修築のための再調査開始、鯉漁業開始以来、最高の水揚を記録、釧路で川崎船が建造、日本郵船が釧路～本州間の航路を開設▲ 当時の戸数3,546戸、人口1万6,312名▲
1908	明治41	3.7 国有鉄道青函連絡船、営業を開始し比羅夫丸就航(4月4日より同型の田村丸も就航)	3.6 小樽区水道工事着手('14年9月竣工) 6.- 小樽港第2期修築工事を起工 7.- 廣井勇「小樽築港工事報文前編」を道庁から発行● 7.- 小樽港第一防波堤工事(延長四千二百五十尺)が竣工● この年、第1期小樽築港工事完成(北防波堤1,289メートル)◎		この年、北海道庁の釧路港修築計画案(関屋計画)が完成▲ 当時の戸数3,979戸、人口1万7,905名▲
1909	明治42		この年、小樽で雑穀商同業組合設立	この年、北海道庁の釧路港修築計画案(関屋計画)が完成▲ 当時の戸数3,979戸、人口1万7,905名▲	4.1 釧路築港事務所を釧路町役場内に開設、初代所長に小樽築港事務所より、関屋忠正が着任※6 11.- 知人町に釧路築港事務所庁舎が落成※6 この年、釧路港修築予算が第25回帝国議会を通過し、釧路港修築工事に着手。春採湖畔のチャランケチャシに釧路港修築碑を建立(昭和39年米町公園に移設)※6、幣舞橋が改築、古川忠一郎編「釧路築港史」が出版▲ 当時の戸数4,493戸、人口2万1,071名▲
1910	明治43				この年、釧路港修築のため釧路土木事務所が設置。山部造船所が開設▲ 当時の戸数4,795戸、人口2万3,545名▲
1911	明治44			12.- 鉄道院により室蘭・石炭高架橋が完成	この年、阿寒川切替工事の測量が開始※6 当時の戸数5,175戸、人口2万4,756名▲

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

5

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1912	明治45/大正元	3.31 函館港埋立に関する参考資料調査のため来函中の岡崎道行技師らが大体の調査を終了して札幌に帰る◇			10. - 釧路築港事務所所属の鑄物工場(75坪)が完成※6 この年、阿寒川切替工事に着手※6 当時の戸数5,749戸、人口2万7,662名▲
1913	大正2	6.17 函館水電、函館市内湯川線電車の運行を開始 11.16 函館～釧路間の直通旅客列車を幌倉(東滝川)経由とする			7. - 北海道拓殖銀行釧路支店が開設▲ 11.16 函館～釧路間の直通旅客列車を幌倉(東滝川)経由とする 当時の戸数5,813戸、人口2万7,943名▲
1914	大正3	2.2 函館棧橋の一部増設工事(車両航送を行うための可動橋と陸上設備)が竣工し、使用を開始する◇ 3.12 明治44年創立の樺太ニシン漁業の一井組がカムチャッカ漁業に進出し、日魯漁業(株)となる◇ 3.30 北日本汽船(株)が創立され、4月1日より樺太庁の命令航路(函館～樺太東海岸線、同西海岸線等)を受命する◇	8.21 小樽区第1期埋立工事を起工('23年12月27日竣工)		7. - 釧路～根室間の鉄道工事が着工▲ 当時の戸数5,872戸、人口2万8,286名▲
1915	大正4	5.3 日本郵船(株)の北千島定期航路第一船和歌浦丸が函館港を出港する。積荷は米・味噌のほか漁業用品・縄・筵・薪であり、漁夫600人が乗船する。根室に寄港して、さらに漁夫と貨物を積む◇		4.1 北日本汽船(株)が日本郵船(株)のあとを受けて室蘭～青森定期航路を通信省より受命する◇	この年、札幌鉄道局釧路工場が建設。釧路にはじめて自動車が入る☆釧路発動機漁船組合が設立▲ 当時の戸数5,979戸、人口2万8,964名▲
1916	大正5	11.26 函館船渠会社で新造した最新式鋼鉄貨物船第2吉備丸(1,000トン)が進水式をあげる。同社は東北アジアにおける唯一の船渠を有し、これまでは船舶の修繕を主に扱っていたので大型船建造は新記録となる◇			この年、釧路港修築計画が改訂され、北防波堤、防砂堤の築造が追加(被覆面積67万坪)▲ 当時の戸数6,395戸、人口3万205名▲
1917	大正6				12. - 釧路～厚岸間に鉄道が開通▲ この年、北海水産株式会社が設立、製造事業のほか沖合漁業を営む▲ 当時の戸数6,695戸、人口3万1,480名▲
1918	大正7			この年、室蘭港第1期修築工事に着工	この年、切替阿寒川が通水※6、富士製紙が鳥取村に工場の建設を開始▲ 当時の戸数7,157戸、人口3万3,382名▲
1919	大正8				この年、知人貯炭場が造成。春採湖岸沿いに軌道が敷設され、春採炭山より港頭まで馬車軌道で結ばれる 当時の戸数7,157戸、人口3万3,382名▲
1920	大正9				7.1 北海道区制が施行され釧路区となり、釧路村を分村▲ 8.8 釧路十勝地方の豪雨で釧路川、阿寒川が氾濫し、未曾有の洪水となる▲ この年、太平洋炭礦が開業。釧路川改修計画に伴い、釧路港の港域が拡大。富士製紙釧路工場で、パルプ、紙の製造を開始▲ 当時の戸数7,953戸、人口3万9,392名▲
1921	大正10	3.13 輸出食品、日魯漁業、勘察加漁業の3社、合併して新社名を日魯漁業とする 12.9 港湾調査会総会が内務大臣官邸で開かれ、函館停車場棧橋移転埋立浚渫および防波堤築設の件が可決される◇	10.23 日魯漁業が出資し、北海道製缶倉庫を小樽に設立	この年、室蘭港北堤工事に着工	6. - 釧路川新水路掘削工事に着工▲ この年、根室線が全通。釧路区東部、西部漁業組合が発足。釧路港湾会が設立。栗林商会が洋紙積取のため、釧路～本州間に航路を開設▲ 当時の戸数8,224戸、人口4万0,293名▲
1922	大正11				7.1 市制が施行され、釧路市が誕生(人口42,673人)★ この年、釧路川改修計画に伴い、釧路港の港域が拡大。灯台霧笛信号が設置され、南防波堤が完成。富士製紙釧路工場でパルプ、紙の製造を開始。釧路市漁業組合、釧路市東部漁業組合が発足▲
1923	大正12	4.1 北海道庁の命令航路の函館～森間が北海郵船により開設される(戸井・楳法華・臼尻など10港に寄港)◇ 4.1 日本郵船(株)近海部が独立して近海郵船(株)が設立される。日本郵船の函館支店事務所その他一切の施設を近海郵船が継承する◇ 5.30 札幌・函館・小樽の3市、都市計画法施行都市に指定 8.5 青函連絡船岸壁工事の基礎となるケーソン(函塊)の進水式が若松町鉄道埋立地船入潤脇で行われる◇	5.30 札幌・函館・小樽の3市、都市計画法施行都市に指定 この年、小樽区第1期埋立工事(小樽運河)竣工		12. - 釧路臨港鉄道株式会社が設立 当時の戸数8,781戸、人口4万5,793名▲

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

6

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1924	大正13	10.1 青函航路の函館埠頭岸壁および待合所工事がほぼ完成し使用を開始する。最初の連絡船取容列車は午前7時半函館発の祥鳳丸に積み込まれる予定であったが、港内大時化のため、新岸壁最初の使用は正午着の比羅夫丸からとなる◇		この年、道庁技師林千秋「勇弘築港論」を発表	3. - 幣舞橋の鉄橋架換工事が着工▲ 当時の戸数9,253戸、人口4万7,357名▲
1925	大正14	5.31 大正11年着工の国鉄青函連絡船函館棧橋岸壁工事が完成し、来賓400人を迎え函館埠頭岸壁において貨車航送連絡設備落成式が挙行される◇ 8.1 これまで解による荷物の積み替えが行われていた青函航路で4船の貨車航送(船内のレールと陸上のレールを継ぎ合わせて貨車をそのまま積んで運ぶ)を開始する◇ 8.1 青函航路、貨物輸送を開始			2. - 釧路臨港鉄道第一期工事(東釧路～春採～知人間)が竣工▲ この年、釧路臨港鉄道が石炭輸送を開始 当時の戸数8,463戸、人口4万2,333名▲
1926	大正15/昭和元	2.18 港湾調査会(会長小熊幸一郎)の総会が開催され、西浜町の埋立計画案が満場一致で可決される◇ 3.17 日本郵船が上海航路(根室～函館～上海)を開設、根室から入港した第1船竹島丸(2,700トン)函館から上海に向けて出港する◇ 4.25 青森～函館間、電話開通 6.23 川崎汽船が函館～北樺太間の郵便航路(オハ、ニコラエフスク等に寄港)を開き、喜福丸が第1船として北樺太石油会社関係者を乗せてオハに向け出港する◇			1. - 釧路臨港鉄道第二期工事(知人～臨港～入船町間)が竣工▲ この年、釧路港第一期修築工事完了▲。川崎汽船の北海道～上海～台湾航路が開設され、釧路港も寄港地となる※6。 当時の戸数8,272戸、人口4万1,195名▲
1927	昭和2	4.1 北海道第2期拓殖計画が確定し、この計画には昭和5年以降15か件継続となる防波堤の延長や埠頭2基の築造など函館港修築工費1,138万円が盛り込まれる◇ 4.13 函館市が出願していた西浜町と海岸町の公有水面埋立が認可となる◇			9. - 釧路～標茶間に鉄道が開通▲ この年、釧路港第二期修築工事に着手(昭和16年に完工)▲ 当時の戸数8,535戸、人口4万2,504名▲
1928	昭和3	6.1 函館港修築起工式が行われる(海岸町、西浜町埋立地で基石の沈下式、公会堂で祝賀会)◇			6. - 第十二銀行釧路支店が開設(昭和18年に北陸銀行と改称)▲ 10. - 4代目幣舞橋(橋長118m、大正14年着工)竣工 11. - 根室線釧網線の分岐点として東釧路駅を設置▲ 当時の戸数8,734戸、人口4万3,495名▲
1929	昭和4	4.1 北海道第2期拓殖計画の函館港修築事業着手のため、函館築港事務所が開設され、北海道庁の伊藤港湾課長が事務所長を兼務する◇ 12.11 多年の懸案だった函館～香港航路が神戸の中村組汽船部によって実現され、第1船の第3雲洋丸が函館港に入港する◇	この年、小樽築港の設計者廣井工学博士の胸像を小樽公園に建設●		この年、釧路漁港(株)(嵯峨漁港)の埋立を認可。マグロ漁が盛んになり、釧路川の「氷きり」も盛んに▲ 当時の戸数9,052戸、人口4万5,079名▲
1930	昭和5				この年、新川橋が架設。釧路港よりアメリカ合衆国、イギリスへ雑穀が直輸出▲ 当時の戸数9,522戸、人口5万1,586名▲
1931	昭和6	9.18 文部省の練習船日本丸が入港、西浜岸壁に繋留する◇ 9.28 港湾委員会で市営西浜埋立地の利用内訳が決定する(中央卸売市場用5,852坪、税関用地1,000坪、商店倉庫地1万374坪)◇			1. - 釧路臨港鉄道(株)が知人埋立地で岸壁荷役を開始▲ 9.20 釧網線が全通* この年、釧路川新水路(現新釧路川)完成。栗林商会、三上合資会社が合併し、三ツ輪運輸株式会社が設立▲ 当時の戸数9,502戸、人口5万1,311名▲
1932	昭和7	1.20 西浜町の市営埋立工事(総面積2万8,247坪)が完了し、事務所も閉鎖されることになり、工事関係者による竣工祝賀会が行われる◇	7. - 第2期港湾修築工事並びに臨港鉄道工事が完成し竣工式を挙行●		この年、釧路川の浚渫工事が開始、西防波堤工事が着工※6 当時の戸数9,527戸、人口5万1,445名▲
1933	昭和8		11. - 輸出組合法に基づき、小樽に北海道豆類輸出組合設立		この年、釧路川～新釧路川間の運河開削工事はじまる。釧路から青島～大連間に航路が開設▲ 当時の戸数9,604戸、人口5万2,061名▲
1934	昭和9				この年、イワシ漁業の水揚量が最高を記録。釧路港より大連向けの輸出額が首位となる▲ 当時の戸数9,815戸、人口5万3,814名▲

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

7

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1935	昭和10	4.1 北海道庁命令航路の新契約が行われる。函館起点では、函館～小樽線(藤山海運)、函館～択捉線(金森商船)、函館～千島線(近海郵船)、函館～根室線(島谷汽船)、函館～鹿部線(渡島商船)がある◇	4.1 北海道庁命令航路の新契約が行われる。函館～小樽線(藤山海運)◇ 5.- 小樽港南防波堤工事が竣工●		8.- 釧路開港三十五周年記念港まつりが開催▲ この年、釧路から青エンドウなどの豆類が欧米へ直輸出▲ 当時の戸数1万0,237戸、人口5万6,170名▲
1936	昭和11		12.- 小樽港に鉄道省経営の石炭積込の諸施設が完成●		9.- 45トン吊積機(タイタンクレーン)を稚内築港事務所より釧路築港事務所直営で所属替えをする(～12月)※6 この年、釧路工業港計画の構想が生まれる(工場誘致は不成功)▲。幣舞橋上流兩岸の埋立による岸壁造成が竣工※6 当時の戸数1万641戸、人口5万8,159名▲
1937	昭和12		この年、小樽港第一埠頭が竣工●	4.- 日本製鐵、室蘭市輪西で鉄鋼一貫作業工場の建設工事に着工	この年、北防波堤が完成(延長1,384m)※6。浜町地先の埋立工事が完成し、副港内に建設された嵯峨漁港に魚市場設置が許可、(株)釧路魚卸売市場の本場となる▲ 当時の戸数1万641戸、人口5万8,159名▲
1938	昭和13				この年、後の北埠頭が着工されるが、戦争のため工事中止となる▲。釧路埠頭倉庫(株)(昭和25年に釧路埠頭(株)と改称)創立、南浜町地先公有水面の埋立工事に着手※6 当時の戸数1万705戸、人口5万7,937名▲
1939	昭和14				この年、釧路石炭荷役株式会社(雄別炭の荷役会社)が設立▲ 当時の戸数1万1,021戸、人口5万8,368名▲
1940	昭和15			3.- 函館船渠、室蘭船渠を合併し室蘭工場とする('42年7月、室蘭工場に1万トンドックが完成)	この年、釧路川浚渫工事、根室本線鉄橋より別保川河口までの浚渫を含む全体が完了。港湾貨物取扱量が222万9,000トンとなる※6。太平洋炭礦の港頭石炭ローダーが完成。太平洋炭礦(株)の年間出炭量が100万トンを超える。タラ、スケトウタラの水揚量が最高を記録▲ 当時の戸数1万1,538戸、人口6万3,180名▲
1941	昭和16				この年、港湾運送業統制令に基づき、釧路港に雑貨荷役のため、釧路港運(株)、石炭荷役のため、釧路石炭運送(株)が設立(一港一社主義)▲ 当時の戸数1万1,625戸、人口6万2,471名▲
1942	昭和17	12.24 函館港湾運送(株)の創立総会が函館海務局で開催される(翌18年1月26日設立)◇			
1943	昭和18	4.15 函館船渠、王子製紙、栗林商船が株主となって東日本造船(株)が発足する(社長は富永能雄、本社は末広町金森ビル内、第1工場は函館、第2工場は室蘭、第3工場は釧路に設置される)◇ 9.22 函館港湾荷役機械(株)の設立総会が開催される(社長平塚常次郎)◇ 11.1 函館海洋气象台の所管が運輸通信省になる◇ 11.1 新設の運輸通信省に小樽海運局を設置し、函館支局を設ける◇	9.- 小樽海運局が設置● 11.- 小樽地方海難審判所を開設●	5.1 大日本再生製紙('45年5月、国策パルプと合併)勇払工場、操業を開始	
1944	昭和19	1.17 函館船渠(株)は、海軍省から第1次軍需指定工場を申し渡される◇ この年、山下汽船、北海商船、川崎汽船の3社が函館に進出し、支店等を開設する◇			この年、近海に潜水艦出没のため釧路港への入航船が減少。ニシンの水揚量が激減▲。南浜町地先公有水面の埋立工事(北埠頭)、エプロン工事を残して完了する※6 当時の戸数1万1,789戸、人口5万8,928名▲

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1945	昭和20	<p>7. 14 アメリカ海軍第38機動部隊第3任務軍の空母艦載機によって空襲を受ける(～15日)。北海道と本州を結ぶ鉄道貨物輸送(とくに本州の工業地帯向け北海道産石炭の輸送)の根幹となっていた青函連絡船網が攻撃目標とされ、連絡船12隻中、10隻が沈没・座礁炎上し、2隻が損傷、373人が死亡する。ほかに石炭を積んで函館から青森に航行中の機帆船272隻のうち、70隻が沈没し、79隻が損傷する◇</p> <p>7. 25 壊滅状態の国鉄青函連絡船運航を応援するため、急遽、船舶運営会所属の樺太丸が就航する。このほか損傷を受けていた貨物船第7青函丸と第8青函丸の2隻は、2週間ほどの修理を終えて再就航する◇</p> <p>9. 27 マッカーサー・ラインが設定され、それまで函館の産業経済と市民生活を支えてきた北洋漁業(露領、母船式、北千島漁業)と樺太・南千島漁業の漁場は失われる◇</p> <p>11. 17 GHQより函館、博多ほか9港が帰還者受入港に、また、函館、舞鶴ほか6港が非日本人送出国に指定される◇</p> <p>11. 27 政府米輸送船の第1船となる忠洋丸(機帆船、706俵積載)が函館港に入港する◇</p>			<p>7. 14-15 釧路が空襲される▲ この年、副港地区に北埠頭へ通じる雄別線が入る※6、小型底曳網漁船が13隻操業を許可される。東北地方の底曳網漁船の入会と無許可船の操業が増える▲ 当時の戸数1万277戸、人口5万633人▲</p>
1946	昭和21	<p>2. 5 空襲で破壊されていた連絡船棧橋待合が復旧し、供用開始となる(ミカド食堂も営業)◇</p> <p>5. 13 新造の連絡船第12青函丸が11日入港し、就航式が挙行される◇</p> <p>6. 1 函館海運支局に統括されていた函館税関が、独立復活する◇</p> <p>7. 1 昭和18年以来中止となっていた港まつりが再開される◇</p> <p>7. - 運輸省は青函連絡航路の輸送力回復対策として8隻の建造を決議してGHQの許可を得る(洞爺丸、摩周丸など)◇</p> <p>8. 2 アメリカから食糧(トウモロコシ7,208トン)を積載した貨物船エノック・トレーン号が函館港に入港する◇</p> <p>12. 5 米ソ協定による正式な引揚げが開始され、樺太の真岡(現ホルムスク)から引揚第1船の雲仙丸が入港し、西浜埠頭に着岸する(1,928人乗船)。第2船の白龍丸、第3船の新興丸7日、第4船の大隅丸が8日に入港する。これら4船による第1次引揚げで、総計5,702人が函館に上陸する◇</p> <p>12. 19 舞鶴港に到着したシベリア引揚第1船から北海道関係者317人が香岐丸に乗り継ぎ、この日函館港に入港する◇</p>			<p>この年、北埠頭、専用鉄道の残工事が竣工※6、釧路港湾振興会が、船主、荷役業者、荷主、倉庫業者らの参加で発足▲ 当時の戸数1万943戸、人口5万3,859名▲</p>
1947	昭和22	<p>8. 27 北海道～東京航路に新造船ときつ丸が就航し、東京から函館に入港する(同日、釧路に向け出港)◇</p> <p>11. 16 青函航路に就航する新造船洞爺丸が、函館港に入港する◇</p> <p>この年、運輸省所管の函館港修築工事が施行される(昭和25年完成)◇</p>			<p>この年、釧路川河口右岸の災害復旧工事が始まる。北埠頭岸壁に石炭積込専用ベルトコンベヤーが設置※6 当時の戸数1万2,412戸、人口6万1,368名▲</p>
1948	昭和23	<p>8. 28 浦賀ドックで建造中の摩周丸(3,900トン)が竣工し、青森～函館間の連絡船として就航する◇</p>			<p>この年、北埠頭の石炭積込設備の残工事が竣工。港則法および港域法が施行され、釧路港は港則法上の特定港に指定される※6 当時の戸数1万2,988戸、人口6万5,721名▲</p>
1949	昭和24	<p>4. 8 青函連絡船棧橋の改修工事が着工される◇</p> <p>7. - 函館棧橋第2岸壁の改修工事が竣工する(総工費2300万円)◇</p> <p>8. 23 戦後、函館から初めての海外直輸出となるベルギー向けインチ材が、この日、イギリス汽船ソマリー号に積み込まれる(北見地方産出のナラ材を市内の製材会社が製材し、アントワープ市の発注先へ向けたもの)◇</p>	<p>この年、外国民間貿易港に指定◎</p>	<p>この年、外国民間貿易港に指定◎</p>	<p>5. - 雲仙丸が釧路～京浜間の定期航路を就航▲ 7. - 鮮魚の統制が廃止され、三卸売市場が発足△ 12. 22 釧路機船底曳網漁業協同組合が設立△ この年、第二十三東海丸にはじめて魚群探知機が設置。北海道水産試験場釧路支場が開設。港湾荷役の組制度が廃止され、港湾労働者は荷役業者の直雇となる▲ 当時の戸数1万4,826戸、人口7万1,731人▲</p>

2. 北海道の港町の歩み【函館港・小樽港・室蘭港・釧路港】

9

西暦	年号	函館港の歩み	小樽港の歩み	室蘭港の歩み	釧路港の歩み
1950	昭和25	8.1 青函鉄道管理局が設置され、開庁式が挙行される◇ 8.15 函館船渠(株)は小樽工場を閉鎖し、室蘭造船所を室蘭製作所と改め、陸上工事専門工場とする◇ 9.16 道南海運(株)は函館～大畑間の定期航路を開設する(共栄丸が隔日運航)◇ この年、植物防疫法に基づく輸入港に指定◎		4.1 集排法に基づく日本製鉄の分割により、富士製鉄輪西製鉄所が新たに発足 この年、出光・スタンダード・ゼネラル石油の各社、室蘭中卯埠頭に油槽所を建設し石油配分基地を形成	8.15 市営製氷工場が操業を開始△ 8.- 市営漁揚場が落成△ 12.- 北埠頭が完成▲ この年、戦後初の外国貿易船が釧路に入港。漁業基地化が進み全国よりサバ、サンマ漁船が集結。 当時の戸数1万8,077戸、人口9万3,357人▲
1951	昭和26	1.19 重要港湾の指定◎ 6.29 函館漁港が第3種漁港に、志海苔漁港が第1種漁港に指定される◇ 8.30 函館船渠(株)は、定時株主総会で函館ドック(株)と社名変更することを決定する◇ この年、検疫法に基づく検疫港の指定◎、港湾運送事業法の適用を受ける◎、出入国管理令に基づく出入国港の指定◎、函館ドック、政府の第7次前期計画造船による日本海汽船発注の「北海丸」を建造	1.19 重要港湾に指定◎	1.19 重要港湾の指定◎ この年、検疫法に基づく検疫港の指定◎、富士製鉄室蘭製鉄所(4月1日改称)、第1次設備合理化計画に着手('65年、予定通り大部分を完了。生産量が飛躍的に増大)	9.22 釧路港が地方港湾より重要港湾に昇格△ この年、副港建設に着手。釧路川中流部の改修工事に着工▲、釧路市が旭化成顧問の宗像博士に工業開発を支える工業港の立案を依頼するとともに工場誘致の運動が盛んになる。 当時の戸数1万8,669戸、人口9万7,973人▲

【参考文献】

「北海道みなとまちの歴史 廣井勇が育んだ北の日本近代築港」著者：関口信一郎／発行：亜璃西社／発行日：令和3年(2021)2月12日

◇「函館市史 年表編」発行：函館市／発行日：平成19年(2007)2月28日

●「小樽市史 年表編」発行：小樽市／発行日：昭和28年(1953)12月10日

▲「釧路市史総合年表」発行：釧路市／発行日：昭和50年(1975)9月25日 ☆「釧路市史 年表」発行：釧路市役所／発行日：昭和32年(1957)9月15日 △「新修釧路市史 第四巻資料編」発行：釧路市／発行日：平成9年(1997)3月31日

※7「釧路港建設史」発行：釧路港湾建設事務所／発行日：平成10年(1998)3月

※8「新北海道史 第九巻史料三」発行：北海道／発行日：昭和55年(1980)11月30日

★小樽市・函館市・室蘭市・釧路市・根室市・稚内市・留萌市・網走市・紋別市・広尾町の各HP

◎国土交通省北海道開発局HP(港湾・空港→北海道のみならず各みなとの紹介) https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kk/kou_kei/ud49g7000000kikg.html